

## 「早稲田祭 2006」早稲田大学大学院公共経営研究科学生会主催シンポジウム

## 『日本ゼロ年』

～今、問われる国のカタチ～

1. 開催趣旨

2006年9月26日に戦後生まれの安倍晋三氏が総理大臣に選出されたことで、「戦後政治からの脱却」を掲げた政権が誕生しました。また10月9日には誰も予期しえなかった北朝鮮の核実験が実施され、東アジアが緊張状態に陥っています。このような内外の出来事は、「06年こそ日本史の転換期になる」ということを告げているのではないのでしょうか。

日本政府は国連においての経済制裁決議に加え、単独制裁を打ち出しました。このような電光石火の対応は、10年前では決して考えられませんでした。一部では日本の安全保障の見直し論も出ており、安倍政権が今後どう動くのか全世界が注目しています。一方外交のみならず、内政問題も山積しています。例えば、安倍首相は「教育再生会議」の設置など公教育の再生を重要課題に掲げております。公教育再生に向けたこれらの政策が、地域、学校そして家族にどのような影響を与えるのか注目すべきではないのでしょうか。さらに10月下旬に行われる衆院補選から始まり、来年の統一地方選、参議院選と、安倍政権発足直後は政界に動きのある一年となっております。政界再編や二大政党制への可能性について改めて問い直す必要もあると考えています。

2006年を新しい日本史のゼロ年とするならば、この国はいかなる方向へ向かうのでしょうか。例年15万人以上の動員数を誇る早稲田祭という絶好の集客機会を捉え、「これからの日本の将来像」を自民党・民主党のニューリーダーに投げかけ、白熱した議論を交わしていただきたいと思えます。

このシンポジウムが来場者の方々にとって「日本のあるべき姿」を考えるきっかけとなることを期待しています。

2. シンポジウム構成

- ① 日時 11月5日(日) 14時～
- ② 会場 西早稲田キャンパス14号館201室(750人収容)  
所在地:東京都新宿区西早稲田1-6-1
- ③ 内容 パネル・ディスカッション  
テーマ:「日本ゼロ年」  
コーディネーター:田勢康弘氏  
パネリスト:自民党 猪口邦子氏、河野太郎氏、菅原一秀氏 ほか

3. 主催・後援・協賛

- 主催: 早稲田大学大学院公共経営研究科学生会  
後援: 早稲田大学マニフェスト研究所  
早稲田大学メディア文化研究所  
協賛: 株式会社アバホテル  
株式会社グロービス

以上

早稲田大学大学院公共経営研究科  
学生会会長 井桁永介  
(携帯電話) 090-6118-6825  
(メール) eisuke13@smail.plala.or.jp